

## 「3D 合同シンポジウム」開催のお知らせ

映像情報メディア学会立体映像技術研究会と3Dコンソーシアムの共催で、3D合同シンポジウムを3月20日に開催します。

このシンポジウムは、3D技術を広く知って頂くことを目的としています。

「3D」を広義に捉え、様々な分野で活躍されている講師の方々に「3D」の面白さや将来についてご講演していただきます。学会会員やコンソーシアム会員に限定せず、どなたでも参加できます。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

### ---開催概要---

1. 名称：「3D 合同シンポジウム」
2. 日程：3月20日（金） 13時30分～17時10分
3. テーマ：「3Dってこんなに面白い！」
4. 参加費：無料（どなたでも参加できます）
5. 会場：NHK放送技術研究所 1F 講堂

所在地：〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11

アクセス：<http://www.nhk.or.jp/str1/aboutstr1/map.html>

### <お申込みについて>

- ・参加対象：どなたでも参加できますが、当日の受付をスムーズに行うため、3月18日（水）までに、参加者名と所属を3DC運営事務局（[jimukyoku@3dc.gr.jp](mailto:jimukyoku@3dc.gr.jp)）宛てお知らせください。

=====★ 20150320\_3DC 3D 合同シンポジウム 参加通知書 ★=====

●参加者名と所属（ ）

※人数制限はありません。

### プログラム

13:00 受け付け開始

13:30-14:10

#### (1) 「3Dってこんなに面白い！」

講師：神田清人氏（株式会社ニューサイトジャパン）

概要：子供たちは3Dを面白いと捉えます。子供たちに3Dを伝える時、子供たちの目は輝いています。でも大人たちの目は決して輝いてとは言えません。

大人の目が輝くためには、3Dをビジネスにすることが必要です。

課題はどのような条件が整えば3Dが事業として成立するかです。

3D技術をどのように変換して3D事業にするかを皆さんと一緒に考えてみましょう。

14:10-14:50

(2) 「**これからの映画館を考える～3Dの先に～**」

講師：大口孝之氏（映像ジャーナリスト）

概要：最近、「3D映画ブームは終わった」という論調の記事をよく見かけます。でもそれは事実でしょうか。もし事実だとしたら、流行が終わってしまった原因は何なのでしょう。また、これまでの3D映画ブームに見られる、“ほぼ30年”という流行の周期性には理由があるのでしょうか。最近流行っているHMDやプロジェクション・マッピングにも、流行の周期性はあるのでしょうか。次なる流行は何なのでしょう…などといったことを考えてみたいと思います。

14:50-15:30

(3) 「**HMDを使った3Dコンテンツとインタラクション**」

講師：藤原航氏（株式会社エクシヴィ R&Dプログラマー）

概要：昨年後半からよく見かけるようになった3Dヘッドマウントディスプレイと、それをを用いたVR空中タッチインターフェースについてその原理やコンテンツの作り方、周辺機器やVRHMDと相性のいい360°の全天球コンテンツも絡めながらご紹介します。』

15:30-15:50 休憩

15:50-16:30

(4) 「**立体表現の難しさを逆手に取ろう-錯覚エンタテインメントの可能性**」

講師：杉原厚吉氏（明治大学先端数理科学インスティテュート・特任教授）

概要：映像で立体情報を正しく伝えることは、やさしくはありません。その主な理由のひとつは、映像には奥行き情報が陽には含まれないのに、それを見る私たちの脳は、勝手に思い込みなどを追加して、あたかもちゃんと立体を理解していると誤解してしまうことにあります。このことを数理的に利用すると、新しい立体錯視を作り出すことができます。本講演では、この方法で設計した作品を紹介し、錯覚を利用したエンタテインメントの可能性について考えてみたいと思います。

16:30-17:10

(5) 「**最新3Dディスプレイのからくり 一見える気がする3Dから確実に見える空中表示まで**」

講師：山本裕紹氏（宇都宮大学 准教授）、陶山史朗氏（徳島大学 工学部光応用工学科 教授）

概要：まず、視覚による奥行き知覚のメカニズムについて簡単に説明します。次に、表示画面の間に映像が見える奥行き融合錯視（DFD）の最近の研究成果を紹介します。さらに、自由空間を使ったインターフェースとして期待されている空中表示技術について原理と機能を解説します。

以上